

MeshVista ログ機能 ユーザーズ・ガイド
(第2.0.1版)

2008年 12月

Thinktube Inc.

目次

1.	ログ機能について	3
1.1.	基本機能概要	3
2.	ログ機能の使用方法	4
2.1.	操作パネル表示までの処理	4
2.2.	操作パネル説明	5
2.3.	ファイルの指定	5
2.4.	ファイル指定後の操作パネル	6
2.5.	録画方法	8
2.6.	再生方法	9
2.7.	注意事項	10
3.	ログ機能のオプション	10
3.1.	録画オプション	11
3.2.	再生オプション	11
3.3.	その他	11

1. ログ機能について

本機能は、MeshVistaがメッシュネットワークから取得する格ノード及びリンクの情報を保存、再生する為のものです。MeshVistaの重要な機能は定期的にメッシュネットワークの状態を調べ、その状態を画面上で表示するのです。ログ機能も定期的にその情報のスナップショットを得、指定された先に記録(録画)します。それから、すでに存在しているログファイルを様々な形で再生することもできます。

1.1. 基本機能概要

本機能を使って次のことはできます。

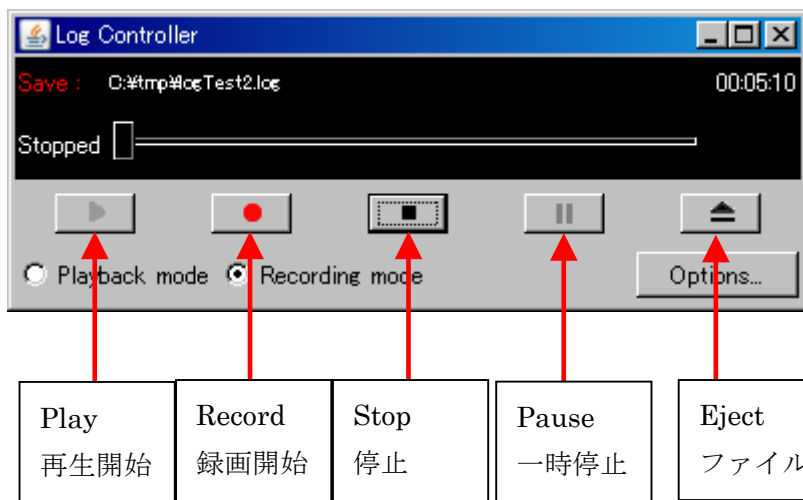
機能：録画。定期的にMVの画面上のメッシュネットワークの状態を得、ファイルシステムに記録（録画）できます。録画に当たって次の作業を行います。

- 保存先とファイル名の指定。
- データ取得する頻度の指定。（何秒毎に）。
- スタート、ポーズ、ストップのコントロールの使用。
- 継続的な録画。（保存先の空き領域によります）。

基本機能：再生。あらかじめ保存されたファイルを開き、録画当時のネットワーク状態をビデオのように再生できます。再生に当たって次の作業が可能です。

- スタート、ポーズ、ストップのコントロールの使用。
- イベント毎再生とその期間の指定。
- 早送り再生。（200倍速まで）。

操作パネル

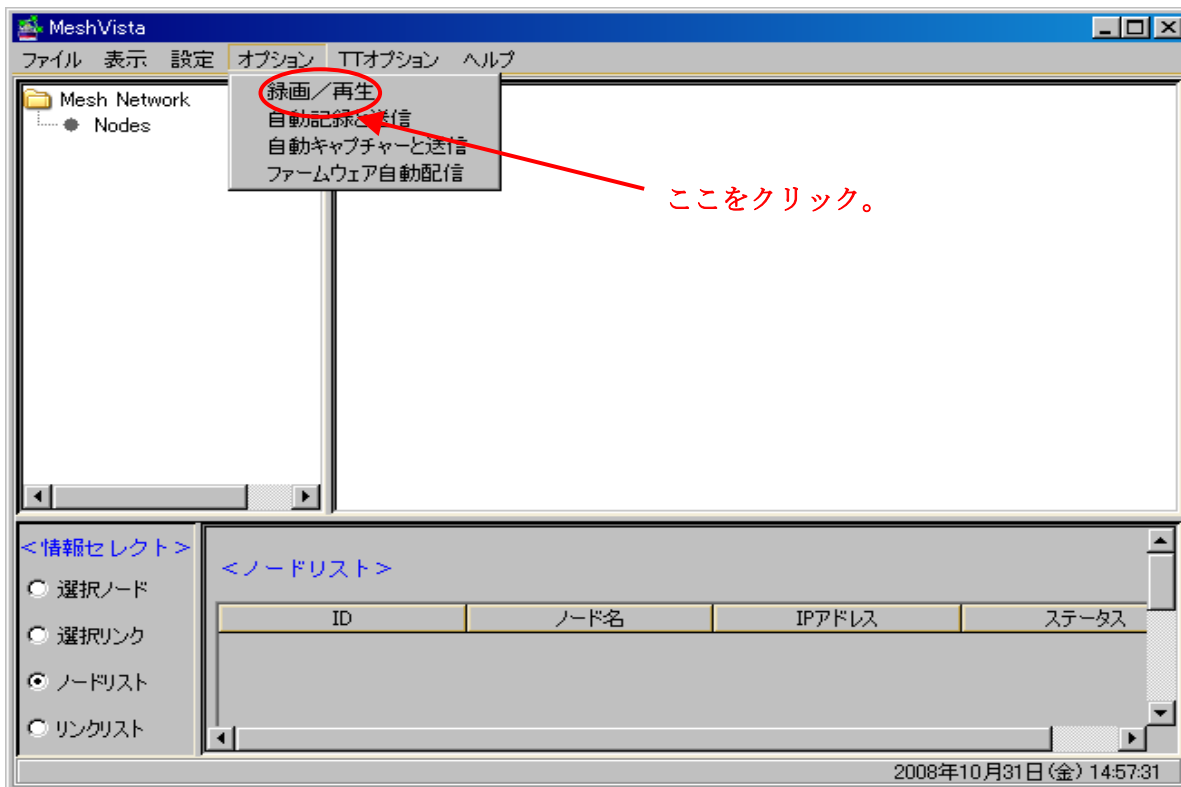


なお、ログ再生時は、通常の MeshVista 機能がストップしていますので、ご注意ください。

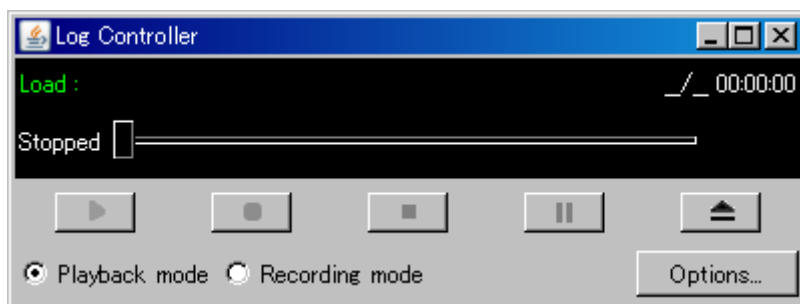
2. ログ機能の使用法

2.1. 操作パネル表示までの処理

メニューバーから「オプション>録画／再生」をクリックします。



すると、以下のフレーム「Log Controller」が現れます。

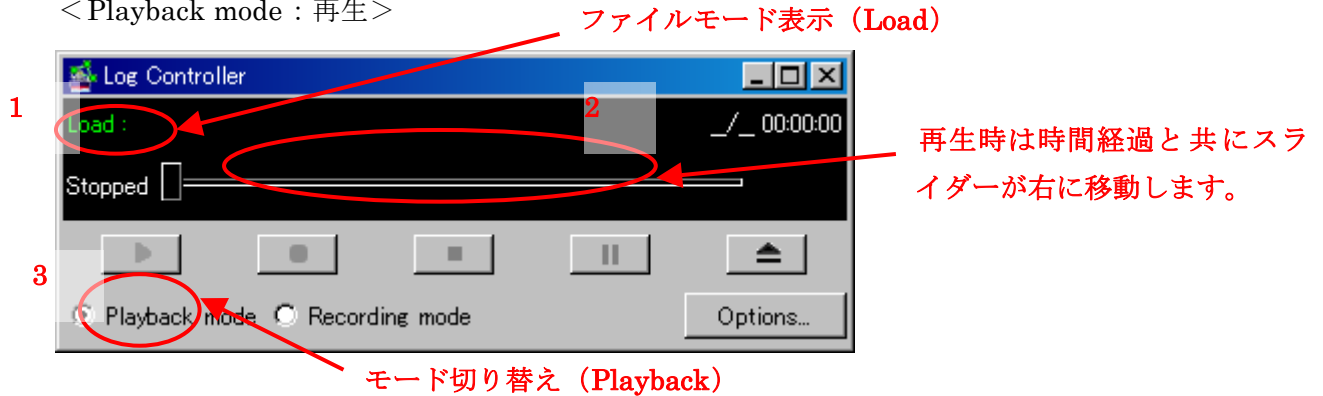


上記が操作パネルとなっています。

2.2. 操作パネル説明

フレーム立ち上がり時は下の「Playback mode」再生モードとなります。「Recording mode」ボタンをクリックすると録画モードに変わります。

< Playback mode : 再生 >



< Recording mode : 録画 >

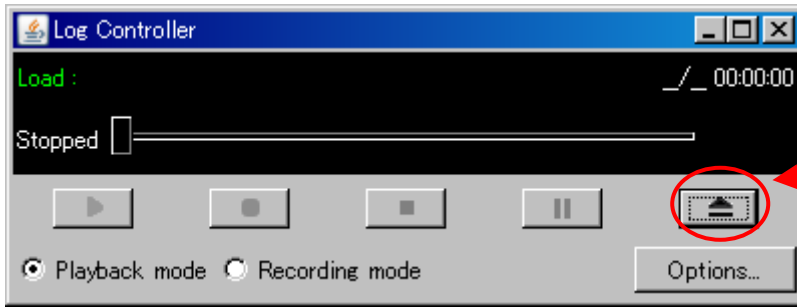


- 1 ファイルモード表示：モード切り替えボタンで選択したモードによって変わります。（Load (ロードファイル) はグリーン、Save (保存ファイル) はレッドで表示されます。）
- 2 スライダー：再生時のみ機能。再生するファイルの時間と再生済み時間からスライダーの位置が決まります。（ファイル終了時はバーは右端にきています。）
- 3 モード切り替えボタン：Playback / Recording のモード切り替えを行います。（Playback 時には録画が、Recording 時には再生が行われなくなっています。）

2.3. ファイルの指定

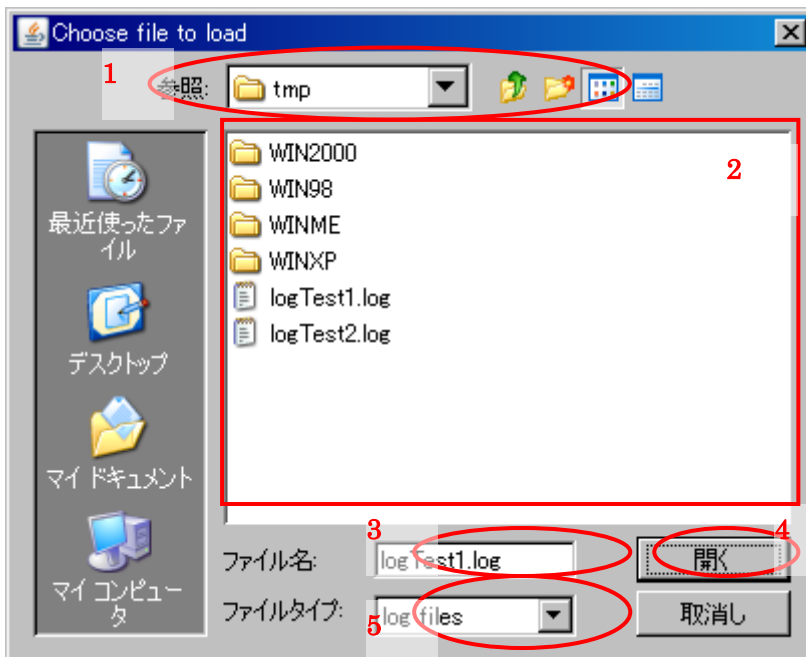
録画時はセーブ先ファイル、再生時はロードファイルを指定します。指定方法自体は共通です。（オープンするフレームはモードにより異なります。）また、ファイルを指定して初めて各ボタンがクリック可能になります。以下ではPlayback 時の設定方法を示します。

操作パネルのEJECTボタンをクリックします。すると、ファイル選択フレーム(Choose file to load)が表示されます。



EJECTボタン

ファイルを選択し、“開く” をクリックして下さい。或いはファイル名を直接指定して下さい。

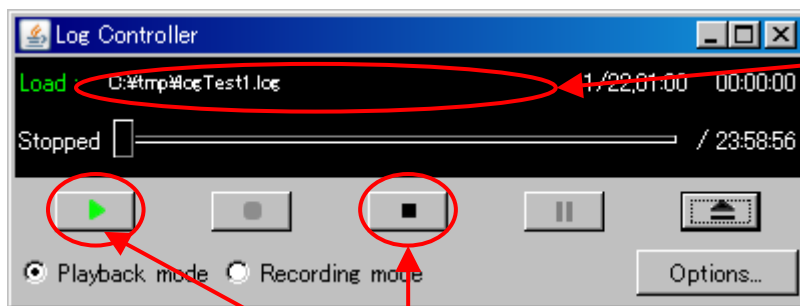


- 1 保存先フォルダ。初期状態では、MeshVistaのインストールフォルダとなっています。
- 2 ファイル（或いはディレクトリを）選択して下さい。
- 3 録画の時ファイルが存在しない場合は、直接エディットして下さい。
- 4 ファイル名確定後クリックします。
- 5 フィルタです。この場合、ディレクトリか*.logのみ□のフレームに表示します。

2.4. ファイル指定後の操作パネル

ファイルを指定すると、操作パネルにファイル名が表示されます。

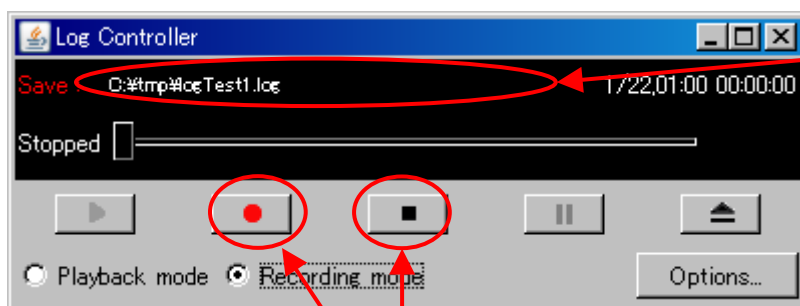
< Playback : 再生 >



ファイル名が表示されます。

ボタンがクリック可能になります。

< Recording : 録画 >



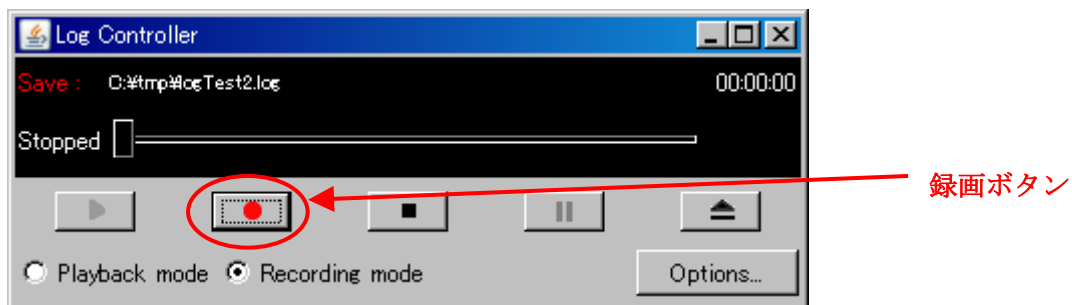
ファイル名が表示されます。

ボタンがクリック可能になります。

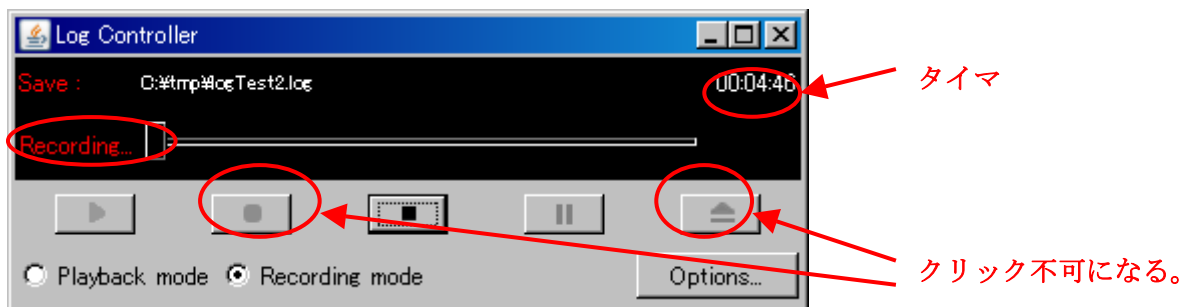
(注意) Recordingモードでファイル指定した後、Playbackモードに変更しても、指定したファイルは有効です。(録画モードで指定したファイルが再生可能です。)

2.5. 録画方法

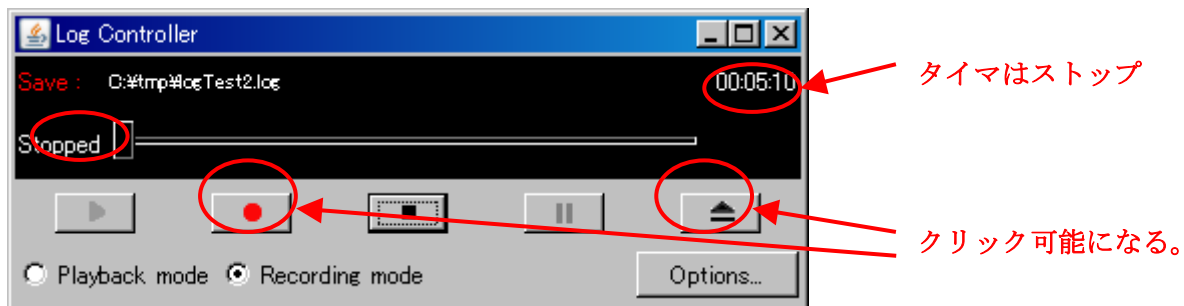
録画 (RECORD) ボタンをクリックします。



Recording... と表示され、タイマがカウントアップされます。この時、録画ボタンとイジェクトボタン (EJECT) ボタンはクリック不可となります。



停止 (STOP) ボタンをクリックすると、タイマがストップし、表示も“Stopped”に変わります。また、録画ボタン、イジェクトボタンがクリック可能になります。

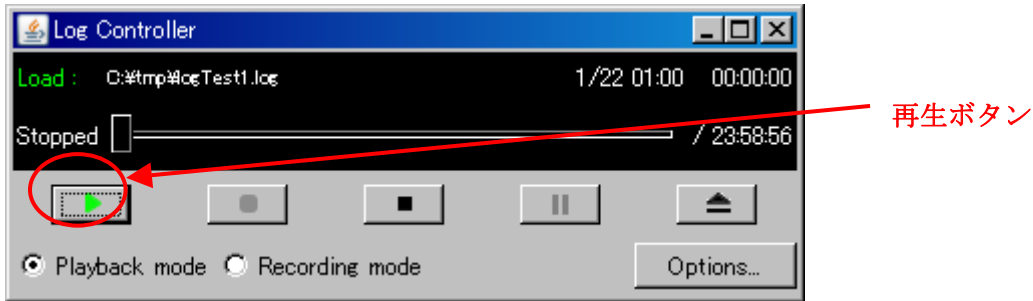


以上で録画完了です。

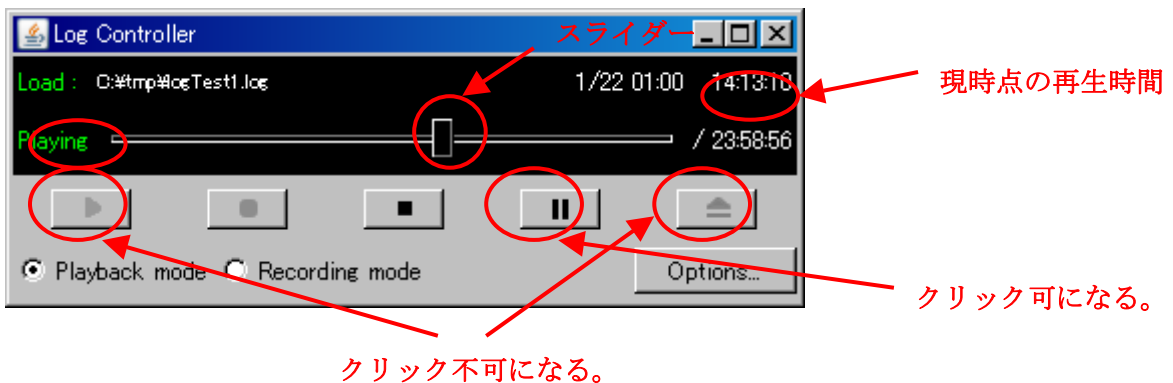
再度録画ボタンを押すと、指定ファイルが上書きされますので、ご注意ください。

2.6. 再生方法

再生 (PLAY) ボタンをクリックします。



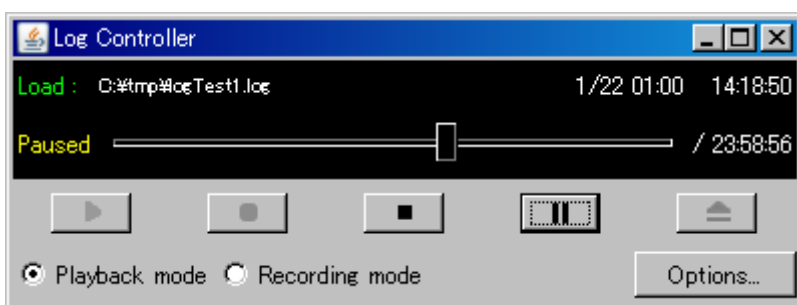
Playing...と表示され、タイマがカウントアップされます。タイマ表示の下には、ファイルの録画時間が表示されます。この時、再生ボタンとイジェクトボタンはクリック不可となり、一時停止 (PAUSE) ボタンがクリック可能となります。再生中はスライダーが右方向に移動します。



再生中にスライダーを動かすことができます。ただし、巻き戻すことは不可能です。巻き戻すには再生を中止にし、もう一度再生した上、スライダーを動かしてください。スライダーの動きを細かくするために「Log Controller」のウィンドウの横幅を調整できます。録画時間に達すると、再生は自動的に巻き戻します。

2.7. 注意事項

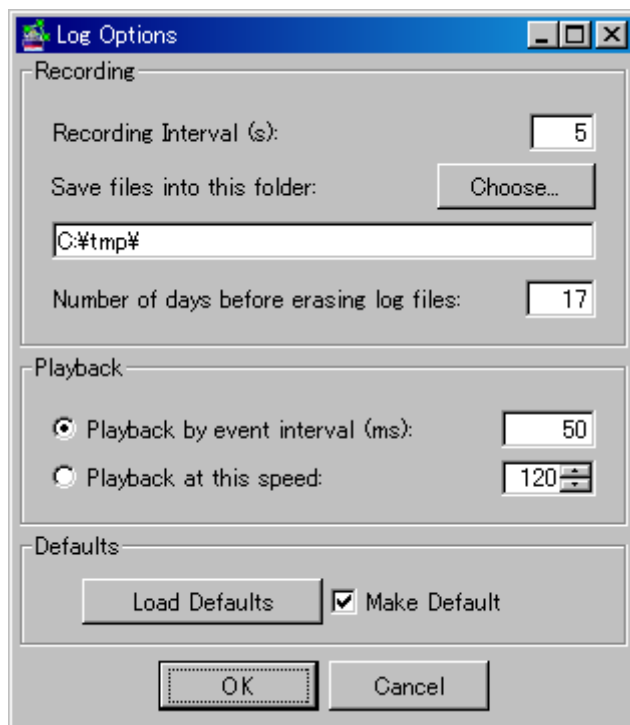
再生中に一時停止（PAUSE）ボタンをクリックすると、再生がストップし、“Paused”と表示されます。（以下の状態）この次には、（一時停止ボタンはクリック可能ですが）停止ボタンをクリックするようにして下さい。



ログ再生時は通常のMeshVista機能がストップしています。（Autoモードを強制的にManualモードに切り替えているためです。）STOPボタンを押すと自動的に、通常のMeshVista機能に戻ります。

3. ログ機能のオプション

第三章で説明されている「Log Controller」のフレームでOptionボタンをクリックすると以下のフレーム「Log Options」が現れます。



3.1. 録画オプション

「Recording Interval」は秒単位で何秒毎にデータを取得するかを指定します。

「Save files into this folder」ではデフォルトの保存先フォルダを指定できます。「Choose」ボタンを押すとフォルダ選択ダイアログが表示されます。指定されたフォルダのパスはテキストボックスに反映されます。フォルダ指定は直接に入力できますが、エラーを避けるために選択ダイアログを使った方が良いです。他の機能もここで指定されるフォルダを利用します。

「Number of days before erasing log files」では、指定されているフォルダから、日付の指定される日数前以上の「.log」と「.png」のファイルは自動的に消去されます。消去されないために、ここでは「0」を指定してください。

3.2. 再生オプション

「Playback by event interval」を選択すると、指定された秒毎に記録されているイベントが表示されます。

「Playback at this speed」を選択すると、指定された倍速で記録されているイベントが表示されます。早送り機能です。

3.3. その他

「Load Defaults」はあらかじめ保存されている値をロードします。

「Make Default」をチェックされる場合は「OK」ボタンを押すと、すべての値はデフォルトになります。

「OK」を押すとすべての値を適用され、フレームが閉じられます。

「Cancel」を押すとすべての値を無視されフレームが閉じられます。